

第 48 回全国私立保育園研究大会 青年会議担当分科会概要

日 程：平成 17 年 6 月 30 日（木） 午前 9 時 30 分～午後 4 時 30 分（うち、休憩 1 時間）

テーマ：伝える…，伝わる…，伝わってる？ ～保護者との相互理解のために

内 容： 保育園において保護者との連携，すなわち良好な信頼関係を築くうえで，コミュニケーションのあり方は重要な課題ではないでしょうか。より良いコミュニケーションを図るためには，保育園での子どもの様子，行事や活動に関する連絡事項，また園の方針や保育理念をしっかりと伝えることまで，園長・保育士が保護者・家庭に「伝える」ときにどれだけ「伝わる」ことを意識し，工夫しているかが重要となってきます。

本分科会では，「伝える」ということの本質を討議の柱に，伝えたいことが伝わる園だより・クラスだよりづくりの条件や方法，携帯電話のメールを利用した情報伝達の紹介，そして口頭でのコミュニケーションについて実践的に話を深めたいと思います。

提案者：渡辺 真一 氏（横浜市，初音丘幼稚園・スカイハイツ幼稚園園長）
（横浜国立大学教育人間科学部非常勤講師）
（日本経団連・業種団体・私立幼稚園経営者懇談会会長）

中島 章裕 氏（愛知県豊橋市，明照保育園園長）

片山 喜章 氏（神戸市，はっと保育園園長）

座 長：妹尾 正教 氏（鳥取県米子市，仁慈保幼稚園園長）

担 当：菊地 秀一（札幌市，三和新琴似保育園園長）

定 員：50名

「いろいろな保護者とのコミュニケーションの取り方」

社会福祉法人 明照保育園 園長 中島 章裕

1. 本園の状況と取り組み

本園は、豊橋市の西方に位置し、昭和28年設立当時は農漁村であったところが、三河港の開港に伴う工業の進出、道路の整備により様相が一変された区域にあります。小学校が隣にあり、交流も盛んに行われています。定員は250名のところ、4月当初の園児数は266名(幼児198名、乳児68名)です。7時から19時までの延長保育事業、地域交流事業、障害児保育、子育て支援事業を市の委託を受け行っています。そして、平成15年度より、放課後児童クラブ(学童保育)も開設(定員35名:現在56名在籍)しました。とにかく大規模園なので(世帯数222)保護者とのコミュニケーションの取り方には、毎年試行錯誤しています。また、この頃の保護者は、価値観も人間性も多様化し、従来のやり方だけでは伝わらない人も増えてきました。そこで、送り迎え時の保護者とのコミュニケーションを基本としながらもいろいろな伝達方法を考え、良好な信頼関係を築くべく努力をしてきました。保育園の子どもの様子を見てもらいたくて始めたビデオによる園便り「げんきっ子ビデオ」。そして、保護者の生きた意見が聞きたくて始めたアンケートを初めとしたメールや掲示板「わいわい広場」。毎日の保育の様子を、お迎えまでに保護者の携帯電話にEメールで配信する「お知らせくん」。これらのことを日常の保育の負担にならない程度で続けています。保育園ホームページ(<http://www.tcp-ip.or.jp/~meisyou/index.html>)も園の紹介だけにとどまらず、保育園で大切にしたいことや保育に掛ける思いなどを伝えるようにしています。

2. 取り組みの内容

①「げんきっ子ビデオ」

・平成元年度から始めたビデオによる園便りです。編集をあまり行わずにありのままの日常生活を撮るようにしています。平成2年度より現在のような年3回、各学年別に2時間テープでダビング・貸出をしています。園での出来事をなかなか上手く伝えることが出来ない子も「げんきっ子ビデオ」を見るといろいろなことを家庭で話してくれるそうです。また、保育者たちにとっても自分の保育を振り返る良い機会になっているようです。

②アンケートを初めとしたメールや掲示板「わいわい広場」

・「げんきっ子ビデオ」の貸出の時、一緒にアンケート用紙を配って、行事や園のことについてアンケートを行いました。名前のある分については、必ず返事を書き、提案等には職員会議などで話し合った結果をお知らせしています。現在は、メールや「わいわい広場」がこのアンケートの代わりになってきました。ホームページ掲示板「わいわい広場」は、平成12年12月1日に開設しました。当初は、投稿数も少なかったのですが、現在では、結構活発に保護者同士の意見交換や保育園側の思いを伝える場に成長しています。これらの貴重な意見が、園のよりよい運営に役立っていると同時に、このような保護者と園との公開のやりとりの過程を見ることで、他の保護者にとっても園が近い存在となり、信頼が深まることを期待しています。

③携帯電話のメールを利用した情報発信「お知らせくん」

・毎日の保育の様子を、お迎えまでに保護者の携帯電話にEメールで配信します。「お知らせくん」の話題をきっかけにして、子どもとの毎日の会話が増えた」と好評で登録者は、4月現在で200人以上(母親だけではなく父親や祖父母も含む)にもなっています。暴風雨警報等の緊急時の連絡だけではなく、子どもの休みが多い時の病気情報や対処の仕方にも大活躍しています。

3. ここまでのまとめと課題

本園のような園児数が多い園や今時の保護者の感覚として、PCは有効な手段のひとつといえます。ただ、一時期「わいわい広場」に園への不満が投稿されドキドキしたこともあります。他の保護者も含めて公開での意見交換で乗り切ったこともあります。また、「お知らせくん」の登録者メールアドレスが、漏れたのではないか？という問題が起こったこともあります。この辺の個人情報の管理にも気をつけていかなくてはと思っています。しかし、それらの問題も含めてもPCを使った情報発信や意見交換は、経費や効率的な一面だけではなく、結果を見ても本園にとってはなくてはならないものになっています。同時に、本来、交流するための最も身近な手段である直接顔を合わせての伝え合いは、何より優先すべき事だと思います。保護者同士、保育士と保護者が顔を合わせて楽しく会話のやりとりをしている姿を、子どもたちはしっかりと見ていて、心に刻み込んでいくと思います。直接・間接(PC等)のいろいろな方法を園側が提供していくことで保護者もいろいろな伝え合いを経験し、自分の思いを表現しあえたらと願っています。そして、ハード面だけでなく保護者の思いをきちんと受け止めよりよく進めていける保護者側のカウンセリング的資質を常に磨いていく必要があると思います。